

# 下部消化管内視鏡検査に関する説明と同意書

患者氏名 \_\_\_\_\_ 様 (ID: \_\_\_\_\_)

## 【目的・方法】

大腸の疾患を診断するための検査です。

肛門から大腸に直接内視鏡を挿入し、空気で膨らませながら観察します。大腸内をきれいにするため、前日より準備を行います。必要に応じて粘膜組織の採取や色素撒布を行います。また、ご希望によりポリープ切除を行います。(抗血栓薬内服中の場合や、ポリープの大きさ・数によっては入院可能な施設へご紹介します。) 検査時に病変からの出血や異物がみられた場合には、医師の判断により、止血術などの処置を行うことがあります。検査中の疼痛や、合併症が起こった場合は、検査を中止することもあります。

## 【合併症 (併発症)】

すべての医療行為にはリスクがあり、ある一定の確率で合併症が起こります。

本検査においても下記の合併症が報告されています (過去5年間の消化器内視鏡学会全国調査)。

ただし、下部消化管内視鏡検診による癌の発見率は一般に3~4%と言われており、病気の怖さを考えれば、検査を受けるメリットの方がはるかに大きいと言えます。

① 内視鏡による消化管粘膜の出血・穿孔 発生頻度: 0.012% (8千人に1件)

② 前処置・検査に伴うショック (血圧低下等)、アレルギー等 発生頻度: 0.004% (2万5千人に1件)

合併症が起きた場合は、適切に対応いたしますが、入院が必要と判断した場合は、入院施設への転送手配を行います。その際の診療も通常の保険診療で行われます。

## 【臨床研究検体】

血液、組織等の臨床検体を匿名で臨床研究に供する可能性があり、そのために保存することがあります。

以上の説明を受け、下記の項目に○を付けて署名をしてください。

同意します

同意しません

年 月 日

患者もしくは代理人署名 \_\_\_\_\_



仙台消化器・内視鏡内科クリニック  
泉中央院

山岡 肇  川端和歌子